

「ふれあいの森で里山の伝統を楽しむ：糸紡ぎ・機織りとわら細工」

藤谷 武一（NPO法人いっちゃんクラブ 副理事長）

【糸紡ぎと機織り】

泉州地方は古くから日本でも有数の綿の産地で、その製品は「和泉木綿」として全国的に知られていました。現在ではその栽培はすたれましたが、その伝統は「泉州タオル」として生かされています。ふれあいの森では、この「和泉木綿」を伝承すべくワタを栽培しており、皆さんには11月にワタ摘みのイベントを楽しんでいただいています。一方、2月には摘みとったワタの実（コットンボール）を利用して糸紡ぎと機織りの体験イベントを実施しています。糸紡ぎではコットンボールから種を抜き、弓を使って綿をほぐした後、カーダーという器具を使って綿をすき線維を一方に揃えます。綿をすいたらよいよ糸紡ぎです。梳いた綿に撚りをかけて糸にします。難しい工程ですが、うまく糸ができると快感です。



次は機織りです。毛糸とミニ機織り機を使って毛糸のコースターを作ります。まず、ミニ機織り機に経糸をセットします。このミニ機織り機では経糸が一目おきに上下に開くので一段毎に経糸を上下させ、できた空間に横糸を順次通して簡単にコースターを作ることができます。いろいろな模様を作り出すことができますので楽しい体験です。



【わら細工】

昔、農家ではお米を取った後、わらを使って農閑期に縄や様々な日用品を作り、祝い馬などの工芸品を作って楽しんでいました。工芸品の伝統は今もお正月のしめ飾りに残されています。ふれあいの森ではモチ米を栽培しており、田植え、稲刈りや餅つきのイベントを実施していますが、1月には以前農家がわらを余すことなく利用していたことを伝承すべく



わらを使ったイベントを実施しています。イベントではまず縄を作ります（縄ない）。初心者は数本の藁を一本の縄にするために両手を使って撚る作業に苦労しますが、今年参加された子供さんたちのほとんどは自分で作った縄で縄跳びを楽しんでいました。もう一つの体験はわらを使ったクラフトです。今年はミニ織り機を使ってわらのコースターを作りましたが、他のクラフトも可能です。また、8月にはわらを使って案山子を作るイベントを実施しています。案山子はふれあいの田んぼの脇に立てられて楽しみに秋の実りを見守ってくれています。



交通案内



「ふれあいの森」の
公開サイン(案内板)

● 電車・バスでのご来園

泉北高速鉄道「泉ヶ丘」駅 南側②番のりば(南海バス)
鉢ヶ峯行き「公園墓地北口」下車 約1.2km
※日曜・祝日は、堺公園墓地行き 直行便有り
「自然ふれあいの森前」下車 すぐ

● 車でのご来園

阪和自動車道 堺ICより泉北ニュータウン方面へ約7.5km
公共サイン(案内板)を目印に お越しください。

●●●●●●●● お問い合わせ ●●●●●●●●

堺自然ふれあいの森 森の館

〒590-0124 大阪府堺市南区畑1740番地
TEL 072-290-0800 FAX 072-290-0811
ホームページ <http://www.sakai-fureainomori.jp>

発行：堺自然ふれあいの森 ふれあいの森パートナーズ(指定管理者)
※ふれあいの森パートナーズは、株式会社生態計画研究所と
NPO法人いっちゃんクラブの連合体です。

堺自然ふれあいの森

ニュースレター 第40号

発行：令和2年3月 ふれあいの森パートナーズ(指定管理者)

イベント報告

● 稲刈り体験 (令和元年10月5日)

6月に子ども達が田植えをした田んぼでは、収穫の時期を知らせるかのように立派な黄金色の穂が目立つようになりました。稲刈り体験に参加した子ども達はカマの使い方をいっちゃんクラブのメンバーに教わりながら、一生懸命稲刈りに取り組んでいきました。収穫後は稲わらを束ねてはざ掛けを行い、普段はなかなか機会のない農業の仕事を、楽しく体験することができました。



● ふれあいの森収穫祭 (令和元年12月21日)

毎年恒例の「ふれあいの森収穫祭」では、10月に田んぼで収穫したもち米を使った「もちつきともち丸め」、森に植えるための苗木を作る「どんぐりの種まき」、森にこらす生きものについて楽しみながら学ぶ「森の学習」を体験していただきました。計58名もの方にご参加いただき、堺に残る里山での体験を通じて文化や自然について楽しく学んでいただくことができました。



● 第13回里山保全ボランティア養成講座

里山保全や市民ボランティア活動に関心のある方を対象に開催している本講座ですが、今回で13回目を迎えました。令和元年6月から11月まで月1回講座を実施し、5名の方が受講されました。講座の内容は座学と実習で、樹林整備活動、調査研究活動、クラフト活動、農作業活動といった各活動の体験、堺市公園緑地整備課による南部丘陵の緑地保全の取り組みの紹介まで多岐にわたりました。



「ノコギリを使って立木を切り倒す」など、受講者の皆様にとって初めての体験もありましたが、非常にアットホームな雰囲気の中、座学・実習ともに熱心に取り組んで頂き、質問や意見交換も活発に交わされました。講座終了後は受講者全員がいっちゃんクラブに入会され、定例活動に早速参加されるなど、実りの多い講座となりました。



大規模改修工事について

平成18年に開園したふれあいの森は今年度で開園14年目を迎えます。森の館では塗装や防水処理の劣化を受け、令和元年11月～令和2年3月まで大規模改修工事を実施致しました。工事中は森の館ご利用の皆様にご不便おかけいたしました。新築のような美しい建物に生まれ変わりました。



▲大規模改修工事後の森の館

新型コロナウイルス感染症対策について

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、ふれあいの森では3月20日まで休園、3月31日まですべてのイベントを中止することといたしました(令和2年3月15日現在)。ご来園、イベントへのご参加を楽しみにされていた皆様へは非常にご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解頂きますようよろしくお願い致します。春の訪れとともに、また皆様にふれあいの森を楽しんでいただけますよう、職員一同、心待ちにしております。



森の館では消毒用アルコールも常備 ▶

里山の伝統文化ともものづくり

堺市に唯一残された里山である堺自然ふれあいの森では、里山の文化や伝統を伝えるため、園内の資材を有効に活用した里山の伝統的ものづくりに関する体験イベントを実施しています。今回はその一部の様子を紹介したいと思います。

綿 糸紡ぎ（綿）

日常で触れる機会が多い綿（めん）ですが、畑で収穫されたふわふわのワタの実が糸になるのはとても不思議です。ワタの実はそのままで繊維が縮れてからまっ
 ▲ワタの実
 維を引き出してはねじり合わせて一本の糸にしていきます。とても繊細で地道な作業です。



茶 お茶摘み

美味しいお茶を作るため、堅い葉と柔らかい葉を丁寧に選り分けながらお茶の葉を摘んでいきます。特に新芽の先端から何枚目を摘んだかで厳しく品質を管理して
 ▲茶揉みの様子
 いました。収穫した茶葉は加温して少しづつ水分を減らして煎茶に仕上げる茶揉みを行います。



竹 案山子づくり

田や畑で作物を荒らす鳥などを追い払うために、人がいるように見せかけたものが案山子（かかし）です。古典的な案山子は竹や藁を使って作った人形であることが多く、地域によっては田や山の神様の依り代となつて悪い気を追い払う効果があると信じられていました。
 ▲水田の景観



絹 糸繰り（絹）

高級な素材として知られる絹はカイコなどの昆虫が作った繭から作られています。カイコは人が品質の安定した絹糸を生産するために家畜として品種改良された
 ▲ヤママユの繭
 ものですが、里山で見られるヤママユ等の野生のガの仲間からも絹糸を作ることができ、これらは天蚕（てんさん）と呼ばれています。



染 草木染め

植物由来の天然の染料で布などの繊維を染め上げることが草木染めといえます。材料には植物の葉だけでなく茎や根、実も使われます。これらを煮出した液に浸して加熱した後、銅や鉄などの金属成分を溶かした液に浸す「媒染」を行うことで色素の染着が良くなります。
 ▲煮詰めた葉



藁 ワラのクラフト

稲刈りのあとの余った材料であるワラですが、古くからワラは縄の材料、履き物や衣類など様々な用途に利用されてきました。ワラで作った
 ▲クラフト見本
 ものは、その品物が使えなくなっても燃やして灰にすれば畑の肥料として利用できるため、捨てる場所のない里山の重要な資源でした。

